

研究構想図

今日的な課題

探究に至る学びが求められている

- 興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組む学び
- 他者と力を合わせ、自らの考えを広げ深めるような学び
- 自ら問題を見出し、回答を導きだせるような学び

学校教育目標

自ら伸びる

児童の実態

- 素直である。
- 豊かな感性をもっている。
- 親身に話し合うことができる。
- 利他的に行動し、結論を急ぐ傾向がある。
- 読書の習慣が身に付いていない。
- 個人差が大きい。

研究主題

自ら探究する児童の育成 ～「市民科」単元開発を通して～

研究仮説

自立的な学びと、対話的な学びを、段階的・発展的な課題解決の中で保障することで、自ら学びを深める児童を育成することができる。

目指す児童像

低学年

地域の人、もの、ことの中から様々なことを体験し、気付いたことから考えようとする。

中学年

地域の人、もの、ことの中から調べ、その情報を基に考えたことをまとめようとする。

高学年

地域の人、もの、ことの中から課題を設定し、自立的・対話的に探究して発信しようとする。

研究の方法

〈授業実践を通して〉

- 複数の小単元を段階的につないで、徐々に発展させる。
- 情報収集は家庭でも行い、学校では対話的な学習に集中する反転学習で効率化を図る。
- 外部人材との交流を経験させる。
- 成果物を広く公開する。

〈日常的な取組を通して〉

- 国語科における言語活動との横断を図り、「学び方」「考え方」を習得させる。
- 図や表など、非言語テキストの活用を図る。
- 話し合い活動を保障する。
- タブレット型端末の日常的な活用を図る。
- 信頼できる情報ソースを蓄積する。